

SSを地域のエネルギー・ルーターに

慶應義塾大学院 政策メディア研究科 永田 幸

< 背景 >

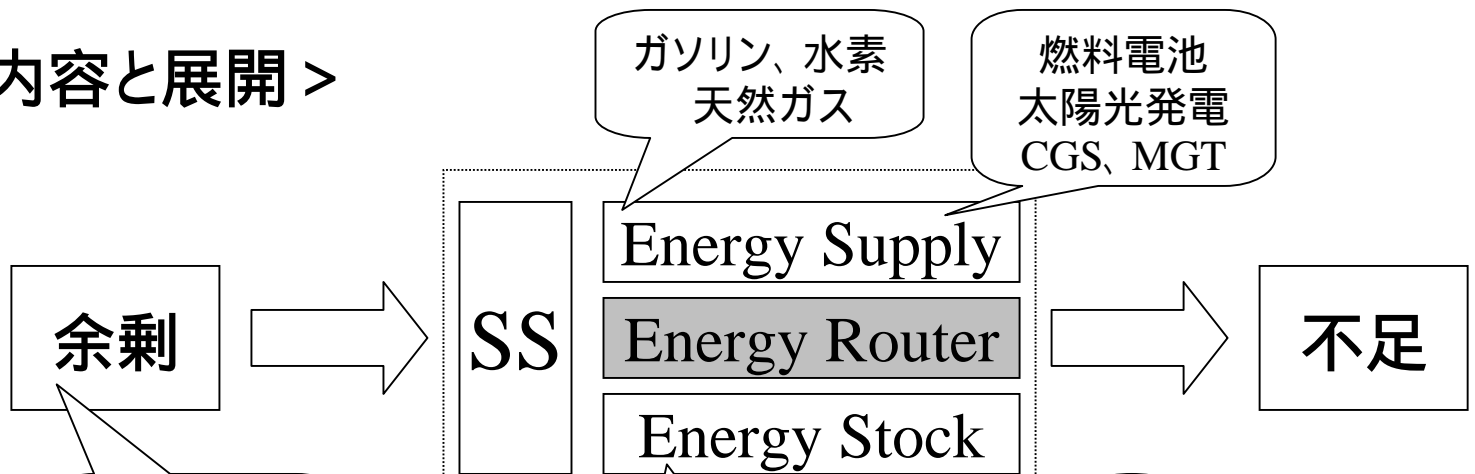
- 水素エネルギー社会
 - 技術的探求から大量普及へ
- PCからPGへ
 - パソコンからビルまで
 - 温水器 定置式燃料電池
- エネルギーの需給バランス
 - 余剰と不足
- ビジネスチャンス
 - 特定電気事業(電事法第2条5,6項)
 - 電力販売の規制緩和により、契約した地点(建物)が必要とする電気を100%供給する事業の展開が可能に。

< 目的 >

- エネルギー・ルーター・ステーション(システム)の開発と普及
- 総合エネルギー企業へ
 - 分散型電源社会の構築
 - 高効率エネルギー・プロバイダーへ
- 社内の経営資源の活用
 - 既存のネットワーク
 - 物流網、SS網
 - 技術
 - CGS、燃料電池など
- 環境先進企業
 - CDM(海外投資)

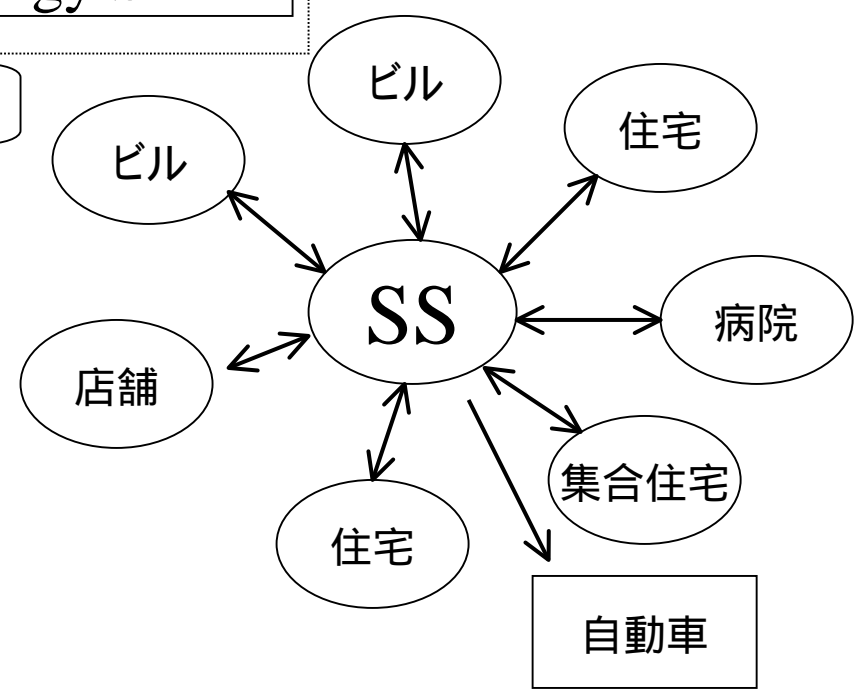
エネルギー・ルーター・ステーション

< 内容と展開 >



燃料電池
太陽光発電
CGS、MGT

水素、熱



(2005年までに)
ルーター・システムを開発し、
(2005年からモデル地区にて試運転)
SSを中心とする狭い地域に、
(2004～7年にかけて大量普及)
燃料電池、CGSの徹底導入。